

氏名	藤井孝治		
学位の種類	医学博士		
学位授与番号	博乙第2121号		
学位授与の日付	平成2年6月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	先天性股関節脱臼に関する研究 —観血的整復術後の股関節造影における関節唇像について—		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 寺本 滋	教授 平木祥夫

学位論文内容の要旨

広範囲展開法による観血的整復術をおこない6才以上に成長した先天性股関節脱臼児のなかで、術後股関節二方向造影をおこなった34例39関節について、術後の関節唇の形態を上方関節唇5型、前方関節唇3型に分類して、股関節形成との関係を検討した。

最終治療成績は全症例で85%、補正手術追加群を除いても67%が Severin の Group I・II に判定でき成績良好であった。また、上方関節唇が正常像を示す Type-1 で79%、前方関節唇が正常像を示す Type-A で92%が Group I・II と判定されていた。しかし、前方関節唇の内反または変形を示す Type-C 8 関節はすべて Group-III 以下に分類され、大腿骨頭内縁涙痕外縁間距離、medial pooling、臼蓋角、sharp 角の改善も明らかに阻害されていた。

つまり、観血的整復術時には関節唇、特に前方関節唇の内反を矯正することが必要であり、内反および変形を残した場合、術後の良好な股関節形成を望むことはできない。

論文審査の結果の要旨

当整形外科教室では、先天股脱非観血的整復不能例に対して、広範囲展開法による観血的整復術を行い良好な結果を得ているが、本研究者は、なおかつ不良例の原因に、術中可及的温存している関節唇に着目し、X線学的解析を試み、観血的整復時に特に前方関節唇の内反の矯正が必要なることを明らかとした。岡大方式の広範囲展開法に大きな改良を加えるもので、臨床上その価値は極めて大きく、本研究者は医学博士の学位を得る資格があることを承認する。